



## 学校だより

## 「支え合って生きる。」

2学期が始まりました。例年より短い夏休みはいかがだったでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大、感染者に対する誹謗中傷、医療従事者に対する差別的な発言等の報道を見るたび、人としての醜い部分も見せつけられて、いやな気持ちにもなりました。そんな中、目に留まった記事や作文を紹介します。

## 日常の五心を忘れず

中島 音葉 12歳 (中学生 垂水区)

私には、目標があります。それは、日常の五心を忘れず感謝の気持ちを持つことです。まずは、五心についてです。「はい」という素直な心。「すみません」という反省の心。「おかげさま」という謙虚な心。「わたしがします」という奉仕の心。「ありがとう」という感謝の心。この五つが日常の五心です。特に謙虚な心と感謝の心を常に思っています。「ありがとう」は魔法の言葉です。なぜなら「ありがとう」と言うと言われた相手と周りの人が素直で明るい気持ちになります。言った人は、楽になりませんか。体も心も、私は楽になります。

この日常の五心は、お兄ちゃんの野球チームからもらった言葉です。これからもずっと日常の五心を忘れず歩んでいきたいです。いろいろなことにチャレンジしたいと思っています。(神戸新聞 若者BOX席より)

私たちはお互い支え合って生きています。より良い人間関係をつくっていくためには、自分の思いばかりにとらわれることなく、自らを律し、研鑽し、そのうえでどう周囲の人々に尽くし、協力していけるかを考えていくことが大切です。子供同士、保護者同士、家族同士、こうべ小に関わる者同士、「温かい心の連鎖反応」をしていきましょう。人のために尽くすことが、自分を高めることに繋がります。

2学期は、本来なら運動会、音楽会等大きな行事を通して大きく飛躍する時期です。今年度は、大きな集団としての学校行事は、難しいですが、学級・学年の中で、一人ひとりがめあてを達成していくことを大切にしていきたいです。友達と力を合わせて進める中で、自分に自信をもったり、友達の良さに気づいたりしていきます。まさにお互いが支え合い、チームとして、仲間として成長していくことです。また、たくさんの学習内容の習得、学年、クラスが1学期よりさらに良くなるために大切な学期です。長い2学期の間には成功体験や楽しいことばかりではなく、失敗することも我慢しなければならないこともあるでしょう。しかし、良い時もそうでない時も学校の主役はすべての子供です。保護者、地域の皆様、2学期も変わりませぬ、ご支援とご協力をお願いいたします。最後に、神戸生田中学校区いじめ防止小中連絡会議で紹介された本校6年生の作文も紹介します。

## 「いじめをなくすために」

6年4組 篠原 伽緒

私は、いじめをなくすためには、まず一人一人が「自分がされていやなことは、人にはしない」ということを、しっかりと理解する必要があると思います。人間は、それぞれ、自分の「生き方」をもっているはずですが、それはもちろん人によってちがいます。だから、「この人とは合わないな。」などと思ってしまうと思います。私もそのような経験がありました。でも、違うからこそ新しい発見があるのだと思います。人はそれぞれ違う、十人十色と分かっていたら、相手の良い所が見つけられるはずですが。

ニュースや新聞などで、学校でいじめをされ続け、自殺した人がいるという事件を何度も見ました。いじめは、差別にもつながると、私は考えています。だからこそ、いじめや差別をなくすためには、自分がされていやなことは人にはしないということが、大切だと思います。

(校長 中田 宗義)